



No. 2662
2013年11月10日
発行責任者 大沼 元
編集責任者 武田 昌

支社内で労災死傷事故続発!

感電による熱傷と丸太衝撃で死亡

仙台支社内において、重大な労災事故が続いて発生した。1件は10月15日、東北本線塩釜SPにおいて協力会社社員が感電による電撃症(熱傷ⅡⅢ度)受傷と、22日には磐越西線翁島駅・更科信号場間において、協力会社下請け作業員が丸太の打撃を受け内蔵(肝臓)破裂により死亡するという事故が発生した。

東北本線塩釜で23歳の若者が受傷

仙台支社・設備部電力課の事故概況速報によれば、感電受傷したのは、JRの協力会社である東日本エンジニアリング(株)Ⅱ「テムズ」の経験5年・23歳の若手社員。

当日日本人は、検修責任者以下3人で、塩釜SPの直列コンデンサの検修工事を実施する予定であり、事故の原因は、停電前に直列コンデンサ保護装置の扉を開け、加圧部に触れたためとされている。

病院で受診の結果、電撃症と診断され、右手が熱傷Ⅱ度からⅢ度、右足がⅢ度の重症であり、現在入院加療中。

磐越西線では64歳作業員が死亡

また、仙台支社安全企画室の速報によると、磐越西線、翁島駅・更科信号場間で労災死亡したのは、JRの

協力会社である青葉緑化工業の下請け会社の64歳の作業員である。

当日、工事管理者他6人は、翁島2号林で伐採による発生材処理作業を行っていた。事故は重機のグラブ(木材を挟む部位)から丸太材が外れ、地面で他の丸太材と接触、地面の接触した丸太材が受傷者に衝撃したため発生したが、詳細は調査中。

受傷者は、救急車で病院に搬送され治療を受けていたが、様態が急変し死亡した。

地方本部は連続して発生した労災死傷事故を重く受け止め、事故の直接的な原因の究明は当然として、その背後に潜む要因の洗い出しなど抜本的な再発防止策を会社求めていく方針。

労災死亡事故については、仙台支社では04年10月に山形電車区構内で協力会社の下請け作業員が感電死傷する事故が発生し、05年12月には奥羽本線・赤岩板谷間において協力会社の下請け作業員が感電死亡、また06年8月22日には新幹線総

解雇撤回まで闘う!

JAL 全国キャビンで仙台へ

10月10日、「JAL不当解雇撤回全国キャババン」行動が仙台市内で行われた。

JAL原告団から山口宏弥乗員原告団団長と矢野富美子客室乗務員原告団事務局長の2人が来仙し、日中は宮城県平和労組会議傘下の8労組にオルグに入り、現状報告と引き続きの支援要請を行なった。当日は宮城県知事選挙の告示日でもあり、原告団2人も地方本部が推薦する佐藤正明弁護士士の第一声に組合員と共に参加した。



山口宏弥氏

合車両センターで協力会社社員が車両と乾燥室の扉に挟まれ死亡、09年9月10日には東北新幹線仙台駅構内で協力会社社員が金具から外れたトロッコ線を胸に受け死亡する事故が発生しており、今回はそれに続いての労災死亡事故となった。



夕方行われた報告集会(写真)には約70人の組合員が参加し、不当解雇撤回闘争の現状報告を受けた。現状報告で山口氏と矢野氏は、「10年大晦日に解雇された。日航が行った不当な整理解雇を覆すため、幅広く活動をしている。会社側が解雇しやすい環境を整えてきており、『整理解雇4要件を守らせる』『労働者の団結権を守る』『航空の安全を守る』ためでもある。この活動はこの職場にも共通する『雇用労働条件悪化の阻止』『解雇自由を許さない社会作り』へ通じている」と更なる連帯と支援、協力を訴えた。



矢野富美子氏

※日航不当解雇事件

10年12月31日の大晦日、日本航空は「経営破綻」を理由にパイロット81人、客室乗務員84人の計165人を整理解雇。

解雇通告されたうち、148人(パイロット76人、客室乗務員72人)が、解雇撤回と職場復帰を求めて提訴。東京地裁は12年3月に請求棄却の判決を出し、原告団は、現在東京高裁に控訴し闘いを継続中。

11年9月30日、東京地裁で日航の最高経営責任者・稲盛和夫会長(当時)が証人として出廷し、「整理解雇の必要がなかった」と証言。整理解雇の目的は組合幹部の狙い撃ちであることが明らかになった。

「国労フクシマ交流・視察学習会」の実施要項について

本部49号 闘争指示第8号
10/9付参照 以下事務連絡
日時 13年11月22日〜23日
11時郡山駅集合

内容
①東京電力福島第一原発事故被災地(楡葉町・富岡町)視察
②現地からの報告と交流
③原発の現状と課題についての学習会

日程
22日 現地視察(楡葉町↓富岡駅前↓天神岬公園↓童田駅↓常磐線工事現場↓浅香荘宿泊)
23日 交流学習会Ⅰ(浅香荘内)

交流学習会Ⅱ 郡山ビックアイ13時〜15時30分
※詳細は地方本部まで

レポート 歴史に学ぶ―松川事件

10月12日、福島大学校内で「松川事件無罪確定50周年記念全国集会」（松川事件発生からは64年経過）が開催された。

この集会は生存する6人の元被告の高齢化が進む中、半世紀の節目に冤罪事件の

教訓、歴史的意義をあらためて後世に伝える目的で開催されたもの。

会場には特設会場が設けられるなど全国から約800人が訪れ、地方本部からは3人の組合員が参加した。主催者あいさつの後、事件を担当した鶴見祐策弁護士は、「権力犯罪の実態と松川事件勝利の要因」と題した記念講演で、「国民世論を味方につけることが重要、そのためには労組の活動の広がりが必要であり、文化・知識人への訴えが大切だ。この取組みが勝利に結びついた」と述べた。

あいさつする元被告人

また、「元被告人5人があいさつに立ち、「仕組まれた陰謀により逮捕されたが、国民的運動で無罪を勝ち取った。しかし真犯人は不明であり完全勝利を勝ち取るため力を貸してほしい」と述べた。

※松川事件

1949年8月17日未明、東北本線松川・金谷川間で旅客列車が脱線転覆し、大破。機関士ら3人が死亡した。

戦後3大謀略事件とされている、下山・三鷹・松川事件のひとつ。政治的背景から、当時の内閣は労組ら左翼勢力の犯行であるとほめかした。

国鉄、東芝松川工場の関係者らが逮捕され、主犯格とされた人物5人に死刑、無期懲役5人、他合計20人に有罪判決が言い渡されたが、共同謀議を否定する「諏訪メモ」が見つかったことで最高裁は原判決を破棄、差し戻し審で全員に無罪が言い渡された。

仙台・仙石線駅連交流つり大会



来年も元気に再会を約束

10月14日、仙台駅連合分会と仙石線駅連合分会、そして山形連合分会も合流して恒例の交流釣り大会が陸前浜田で開催されました。

当日は快晴で風もなく、絶好の釣り日和となり、腕自慢の太公望達は、赤間・桜井・坂本・長澤各氏所有の船に分乗し、自慢の腕を比べ合いました。入れ食いではハゼを数十匹も釣り上げる名人あり、半日粘って4匹の釣果の地本役員もいたようでしたが、とにかく盛り上がりしました。

そしてお昼はお待ちかねの大交流会です。釣れたばかりのハゼの天ぷらや骨せんべい、アインメの刺身、焼き牡蠣、蒸し牡蠣、芋の子汁など、絶品料理に舌鼓を打ちました。料理にご協力を頂きました婦人部や組合員家族の皆さん、本当にありがとうございました。

労働政策に転じた。2・1ゼネスト中止、政令201号による官公労スト権剥奪等、労組弾圧の中で定員法36万人の首切りが強行されその焦点は国鉄職員9万3千人の解雇だった。特に49年の弾圧は熾烈を極め、国鉄第一次解雇3万7百人発表翌日には下山事件が、また第二次解雇6万3千人が発表後には三鷹事件が発生。松川事件後に政府は間髪入れず「三鷹事件」など各種事件と思想的底流において同じもの」と首切りに反対する左派労働者、共産党員の犯人像を流布させた。以降、労働運動は後退し弾圧の嵐が吹き荒れ、翌年には朝鮮戦争が勃発した。このような状況・背景をしっかりと見ておく必要があると考える。【佐藤勝】

退職のお知らせ

9月30日付

早川 由夫さん
仙総車体
(TKK利府)

佐々木一雄さん
仙・宮運輸区
(テクノ小牛田)

10月2日付

国分 功二さん
郡山駅連合

長い間お疲れ様でした

仙台分連協が芋煮会

10・19仙台分連協「団結いも煮会」

前日の雨はあがったものの、若干の肌寒さが感じられる奥新川で、仙台分連協



まごころ料理で寒さも吹き飛ば

団結いも煮会が開催されました。

運輸・営業・施設・電気と系統は違う中でも同じ国労の旗のもと、必死にその旗を守り前進してきた仲間達には阿吽の呼吸で料理の任務分担を担って頂きました。また、いも煮だけでなく過日の「仙台駅連・仙石線駅連・山形連合分会交流釣り大会」の釣果であるキスの天ぷらも登場し、また稚内の刺身三昧も花を添え、さらには、保線区分会佐藤書記長の半熟煮玉子も登場し会場は華やいだ雰囲気になりました。

仙台分連協後藤議長のあいさつでは、「自然との協調が大切である」との話がされ、一見組合運動とはかけ離れているようだがその意図するものは何なのか。きつと深い意味があったのでしよう。

仲間の異動

11月1日付

○小松 吉美さん
愛子駅

さくらんぼ東根駅

○渋谷 慶次さん

さくらんぼ東根駅

新庄駅

地本武田執行委員からの塩釜SPにおける協力会社社員、参加者も職場実態を見直せば「合理化のシワ寄せが労働者に押し付けられている」と感じた場面でした。

会には組合員と家族のみならず国労ファンの方もかけつけて、一層の団結を固めました。【伊藤稔】